

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	ヘスティア華城グループホーム		
所在地	防府市大字伊佐江1598番地		
電話番号	0835-20-0322	事業所番号	3570600704
法人名	社会福祉法人 華世会		

訪問調査日	平成 20 年 7 月 22 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 10 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	12 人	常勤 4 人 非常勤 8 人 (常勤換算 11.2 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 21,280 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	1日 1,200円		
その他の費用	光熱水費 1日200円、日用品費 1日200円		

(4) 利用者の概要 (7月22日現在)

利用者数	9 名		男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	1	要介護 4			
	要介護 2	6	要介護 5			
	要介護 3	2	要支援 2			
年齢	平均 87.7 歳	最低 75 歳	最高 95 歳			

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 医療法人社団水生会 柴田病院 歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

職員12名を確保され、6交代の勤務シフトで、日中は3~5名の職員が入浴、通院、買い物など、利用者の状況の変化や一人ひとりの要望に応じられるように取り組まれています。段階に応じた外部研修の機会を勤務の一環として提供されたり、内外研修で学んだことを月一回ミーティングの中で復命され全職員で共有して、サービスの質を向上させていくよう努力されています。職員同士のチームワークや利用者との関係も良く、利用者の笑顔につながっているようです。

(特徴的な取組等)

介護計画の実行記録表を作成し、個別に毎日チェックすることで、計画の期間に応じた見直しや状態の変化に合わせた介護計画の見直しにつなげておられます。戸外に出かける機会が少なくなった利用者もおられ、月2回、地域のボランティア4~5名に来訪してもらい、「おしゃれの日」「フラワーアレンジメントの日」を設けて、利用者が地域の人との交流や、おしゃれなどを楽しむことが出来るよう支援されています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果について、ミーティングで改善に向けての話し合いをされ、できることから取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義や評価項目について月2回のミーティングで話し合い、自己評価表を全職員に配布され、記入されたものを管理者がまとめられ、再度、職員に確認してもらい作成されています。評価を良い機会と捉えられ、サービスの質の向上や改善に前向きに取り組まれています。

(運営推進会議の取組状況)

地区住民代表、家族、利用者、市高齢障害課介護保険室職員、管理者等のメンバーで2ヶ月に1回開催され、状況や行事報告、評価結果報告などを行い、意見交換をされています。法人の第三者委員会会議に参加されており、出された意見を活かされるよう努力しておられます。

(家族との連携状況)

利用料は持参することになっており、月に一回は支払いのために家族の訪問があり、掲示した写真を見てもらったり、暮らしぶりや健康状態などを伝えておられます。また、その他の面会時や電話等で報告したり、要望や意見を聞かれるなど家族との連携をとられています。

(地域との連携状況)

地域行事(祭り、文化祭、運動会)に参加しておられ、文化祭には利用者の作品を出展されています。「おしゃれの日、フラワーアレンジの日」として、ボランティア(地域の人4~5名)が訪問され、利用者と一緒に楽しいときを過ごされています。利用者が一人で外出されたときにも、地域の人が声をかけてくださるなど、日頃から地域の人々と交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>開設時につくられた理念「1.温かく常に笑顔で、ひとりひとりを大切に にする。2.形にとらわれず、真に内容のあることをする」のもと、利用 者を支援している。地域と共に暮らすという理念について話し合っ ているが、見直しはできていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の見直し</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向け て日々取り組んでいる。</p>	<p>事業所内に理念を掲示し、共有している。何に対してでも「ありがと う」をいうことで、笑顔を引き出すことにつながり、良いケアをするこ とが続けられるよう、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治 会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元 の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域行事(祭り、文化祭、運動会)に参加している。文化祭には利 用者の作品を出展している。併設のデイサービスセンターに保育 園児の訪問があり、利用者と交流している。月2回地域のボラン ティア(おしゃれの日・フラワーアレンジメント)が訪問し、利用者は楽し みにしている。</p>	<p>・利用者が参加可能な地域行事の把握</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を 実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改 善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義や評価項目について、月2回のミーティングで話し合 い、自己評価表を全職員に配布し、記入したものを管理者がまと め、再度職員に確認してもらい作成している。評価への取り組みを ケアを見直す良い機会として捉えている。前回の外部評価結果に ついてはミーティングで改善に向けての話し合い、できることから 取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価 への取り組み状況等について報告や話し合いを行 い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>地域住民代表、家族、利用者、市高齢障害課介護保険室職員、 管理者等のメンバーで2ヶ月に1回開催し、状況や行事報告、評価 結果の報告を行い、意見交換をしている。出された意見を活かすよ う努力している。法人の第三者委員も出席している。</p>	<p>・参加メンバーの拡大</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き 来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上 に取り組んでいる。</p>	<p>事業所の状況報告や相談等、市の担当者との連携しながら取り組 んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用料は持参となっており、月に1回は支払いのために家族の訪問があり、掲示した写真を見てもらい暮らしぶりを報告している。その他の面会時や電話等でも生活状況や健康状態について伝えている。職員の異動等についても面会時に知らせている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きも定めている。法人の第三者委員が事業所も兼ねているが、重要事項説明書等に明示されていない。第三者委員は運営推進会議に参加し、相談や苦情を聞いている。意見箱の設置や苦情・相談受付報告書も整備している。	・第三者委員の明示と周知
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員を12人確保し、6交代の勤務シフトにして、日中は3～5人の職員で入浴、通院、買い物など利用者の状況の変化や要望に応じられるようにしている。職員の急病や急な休みには、職員の勤務交代で調整している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動を必要最小限にし、異動があった場合は重複勤務や夜勤に組み入れないなど、利用者に影響のないよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた外部研修への参加の機会を勤務の一環として提供し、内部研修は交代で参加している。研修で学んだことを、月1回ミーティングの中で復命し全職員で共有している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修の場で、参加している他の事業所の職員と情報交換や交流をしている。他施設への見学もしている。	○ ・山口県宅老所・グループホーム連絡会等への参加の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に、本人や家族への面接や自宅訪問を実施し、見学や、一日体験利用をしてもらい馴染めるよう工夫している。入居後も家族にたびたび訪問してもらい、利用者に不安がないよう配慮している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>食事の準備や食事、後片付け、洗濯物たたみなどを一緒に行うなかで、話し合ったり、教わったりしながら共に支えあう関係を築いている。職員は「ありがとう」の感謝の言葉かけをすることを実践している。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中での利用者の言葉や行動から、思いや意向を把握し、個人記録に残し、カンファレンスの中で検討しケアに活かしている。困難な場合は家族から情報を得るなどして、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>把握している本人の思いや意向や、面会時等に聞いている家族の意見、受診時の医師の意見等を参考にし、月1回開催するケアカンファレンスで話し合い、日常生活のレベル低下防止、楽しい生活の向上等、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画実施記録のチェック表を活かし、3ヶ月、6ヶ月ごとの見直しや、利用者の状態に変化が生じたときには、必要に応じて見直ししている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>美容院や受診の付き添いと送迎、利用者の要望に応じて買い物やドライブなど柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への定期受診の支援、通院介助や送迎を行い、看護師が同行することで、かかりつけ医との連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期について、契約時に口頭で伝えている。常時医療が必要になった場合は、かかりつけ医や家族、関係者等で話し合い、他の施設、医療機関への利用変更の支援をしている。	・重度化や終末期に向けた指針の整備
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉づかいには十分配慮し、誇りやプライバシーを損ねるようなことのないよう支援している。言葉かけや対応が気になったときは、その都度、職員同士でお互いに注意し合っている。記録等の個人情報の取扱いは、保管場所を定め、鍵をかけるなど特に気をつけている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れは、概ね決まっているが、食事時間、起床時間など、日々、その時々で利用者に合わせた支援をし、その人らしい生活ができるよう、日誌やケース記録(個人記録)から個々の状態を把握し、ペースに沿った支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の朝、夕と日曜日の昼食はホームで調理している。食事の準備や後片付けを一緒にし、職員も同じ食事を食べながら、ゆったりと時間をとって支援している。食後には自然に歌が出て、しばらくの間、テーブルを囲んで歌を楽しんでいた。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日16時～18時まで可能であるが、隔日で入浴を行なっている。利用者の希望で入浴剤を入れるなどし、職員と1対1で会話を楽しみながらゆっくりと入浴している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌、読書、縫い物やボランティアによる「おしゃれの日」「フラワーアレンジメントの日」の楽しみごとや食事の準備、後片付け、買い物、散歩など、一人ひとりに合わせた場面づくりをし、張りのある生活が送れるように支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	施設内の散歩、買い物、ドライブ、通院など、一人ひとりの希望に沿って外出の支援をしている。法人のデイサービスセンターに出かけ、レクリエーションやカラオケなど、デイの利用者と一緒に楽しんでいる。	・戸外での散歩の工夫
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束、特に言葉や薬による拘束について、カンファレンスの中で話し合い、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関に鍵をかけておらず、利用者は自由に外に出られるよう支援している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書・ヒヤリはっと報告書に記録し、対策を検討し、事故防止に取り組んでいる。危険場所の確認、窒息、転倒など想定される事故が起きないように、一人ひとりに合わせた取り組みをしている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、初期対応や応急手当について、看護師を中心に勉強している。定期的な訓練は実施していない。	・救急救命法の受講 ・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災避難訓練や施設内での避難訓練を実施している。併設施設(ケアハウス)の地域交流スペースが地域防災避難場所になっているが、地域への協力を得るための働きかけはしていない。	・地域住民への協力を得るための働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報(目的・副作用・用法等)をケース記録簿にファイルし、職員はいつでも確認できるようにしている。必要な情報は医師にフィードバックし、薬の変更等があった場合は、日誌や連絡帳に記載し、確認共有している。薬はその都度手渡しし服用を確認している。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員が声かけしたり介助して、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯などの清掃、保管、消毒についても支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を把握して、一人ひとりに合わせた食事の支援をしている。併設施設の栄養士の指導で、栄養管理、水分確保に努め、バランスの良い食事の提供をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、ペーパータオルの使用、手洗い、うがいの励行など予防を実行している。インフルエンザの予防接種を全員が受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホームの温度や明るさは適度であり、換気にも配慮している。リビングの隣にある広い和室は落ち着いた雰囲気、利用者が横になったり、おしゃべりしたりとくつろげる居場所となっている。四季の花を各所に生けたり、絵や写真、手作りのカレンダーを飾るなど工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	仏壇、鏡台、タンス、本棚、冷蔵庫、ラジカセなど、家具や生活用品が持ち込まれ、孫の写真や自分の作品を飾るなどして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	ヘステイア華城 グループホーム
所在地	山口県防府市大字伊佐江1598番地
電話番号	(0835)20-0322
開設年月日	平成15年6月1日

【実施ユニットの概要】 (6月20日現在)

ユニットの名称	ヘステイア華城 グループホーム			
ユニットの定員	9名			
ユニットの 利用者数	9名	男性 0名	女性 9名	
	要介護1	1	要介護4	0
	要介護2	6	要介護5	0
	要介護3	2	要支援2	0
年齢構成	平均 87,7歳	最低 75歳	最高 95歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価の記入様式が変更になったため、説明を行う。 各項目の考え方の方針と着眼点、自己評価の意義について説明を行う。 自己評価票を職員全員に配布し、記入後回収する。 全員の意見をまとめる。
評価確定日	平成20年6月20日

【サービスの特徴】

・職員間の連携や記録物の活用により、入居者の把握に努め、生活全般の支援を個々に合った方法で行っている。また、職員の年齢も20代から50代と幅広く、認知症の入居者に対し症状に合わせた場面ごとの対応ができる。女性職員により、身だしなみやおしゃべり、また、衛生面にも細やかな配慮がなされ、清潔で心地よい生活を送ることができる。法人内の他施設がほど良い距離に位置しており、特養・デイサービス・ケアハウスと用途に応じて活用し、入居者の社会性を保持している。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		地域密着型としての特性を活かせるような理念作りに努めていきたい。
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		より深く理解できるような具体的な取り組みに努めていきたい。
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		職員のモチベーションを維持するための取り組みを充実していきたい。
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		地域への働きかけの機会を増やしていきたい。
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		ボランティア以外の方の交流や近隣住民との関係作りに取り組んでいきたい。
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		積極的な働きかけに欠けているため、努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で取り組み、意義の理解また改善に取り組んでいる。	改善事項についても、さらに検討を行い、日常業務の中で意識を持って取り組みたい。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	状況報告やサービスの現状について説明を行い、意見交換を行っている。	メンバーの充実に努めたい。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	報告や相談等を通じて、サービスの質の向上に努めている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	必要性については認識しているが、現在該当者がいない。	研修会への参加や施設内勉強会で理解に努めたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々業務の中で周知徹底に努めている。	研修会への参加や施設内勉強会で理解に努めたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書・重要事項説明書の説明を行い、質問へも対応している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見等を言い易い雰囲気作りや関係作りに努めている。	的確に表現できない方への配慮に努めていきたい。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	定期的に写真を掲示し、暮らしぶりを報告している。また、面会時には、生活状況や健康状態について報告している。	家族間の交流機会を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		開示する内容の確認を行い、全職員で把握に努める。
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		家族等が意見を言いやすいような雰囲気や機会作りに努め、施設側からの積極的な働きかけを行いたい。
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		些細なことでも問題提起し、話し合いに努めていきたい。
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		交代勤務であるため、状況変化の把握を十分に行えるような取り組みを検討したい。
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		積極的な参加ができるよう、機会の確保に努めたい。また、情報誌等の効率的な活用に取り組みたい。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		男性職員の採用を検討したい。
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		他施設との情報交換ができる機会をつくりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		休憩時間の確保や、スーパーバイザー的人材の確立、親睦会の機会確保に努めている。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		外部研修や施設内研修を通じて、個々の向上心が維持できるよう、機会を確保したい。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		適切な手当での支給がなされている。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		本人・家族との面談を行い、意向にそえるように努めている。また、関係機関からの情報収集を行っている。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		本人を外し、傾聴する時間を確保している。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		他のサービスの利用や、他事業所などの情報を提示し、必要な支援を紹介している。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		必要に応じ、体験利用をしていただく等の工夫に努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		さらに寄り添える関係作りに努め、共に生活をしているという意識を持ち、支えあっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		家族の意向を全職員が共通認識として持てるよう取り組んでいきたい。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		全職員が、状況把握に努め、支援できる体制を作っていきたい。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		支えあえる環境作りの工夫に努めていきたい。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		具体的な対応方法や内容について、全職員の共通認識となるように努めていきたい。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		アセスメント様式の充実と改善に勤め、より情報を収集しやすいものにしていきたい。全職員が周知できる工夫に努めたい。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		より把握しやすい記録方法を検討・改善していきたい。些細な変化も気づく事ができる観察力をさらに身につけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	面会時に近況報告と合わせ、対応状況を伝え、意見を求めて反映できるように努めている。	担当者からの一方的な提示ではなく、本人・家族・他職員からの積極的な意見が提示される環境作りに努めていきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じて、話し合いの時間を設け、変化に合った対応に努めている。	変化に合った対応は行っているが、計画の見直しが跡付けになっていることも多いため、迅速な新プラン作成に努める。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や、状況に応じて個別の記録を取り、情報を共有している。	全職員が、判りやすく・見やすく・的確な表現で記録が行えるよう、方法を勉強していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて、美容院・通院・ドライブ・買い物・散歩等支援を行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議の中で、情報を提供していただいたり、2回/月ボランティアの協力を得ている。	地域、警察、消防等諸機関との連携をさらに図り、地域資源との協働に努めていきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	随時、相談や見学について受け入れを行っている。	積極的な開放には至っておらず、関わり方を検討していきたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	同法人内のダイサービス利用者との交流を持ち、社会性の維持や馴染みの関係維持に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		全入居者を把握し、相談・協力体制がとれる医師の確立に向け検討していきたい。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		特定の専門医との協力体制がとれるよう検討していきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		外部研修に参加したり、同法人の看護職同士の連携により、健康管理や医療活用について、さらに支援できるよう努めたい。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		重度化や看取りについての方針を検討していきたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		重度化や看取りについての方針を検討していきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報の取り扱いについて、法人で取り決めがなされている。記録物については、保管場所を定めている。言葉かけについては、日々配慮に努めている。</p>	<p>カンファレンスの中で、言葉遣いや声かけの工夫について、再確認していきたい。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々に合わせた対応に努め支援している。</p>	<p>能力の変化に気づき、表現力や理解力に合った支援を全職員が行える工夫をしていきたい。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>生活の各場面毎に、できることをできる範囲で行ってもらい、必ず感謝の言葉をかけ、やる気の維持に努めている。</p>	<p>能力を把握し、できそうな事への働きかけを随時行うことや、できるような環境作りや、支援方法を工夫していきたい。</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日誌やケース記録に目を通してから業務につき、個々の状態把握に努め、ペースに合わせた働きかけも工夫している。</p>	<p>カンファレンスの中で、職員の意識向上を図り、具体的な対応について、共通認識を持ちたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望に応じて美容院に行ったり、化粧品や衣類の購入についても希望に添えるように努めている。1回/月お化粧の日を設けている。</p>	<p>個々に応じた、女性らしいおしゃれができるように細やかに支援していきたい。</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理・配膳・片付けは、それぞれのできる範囲で参加してもらえるよう支援している。職員も同じ食事を同じ時間にとり、個々に合った支援をしている。</p>	<p>「食事を楽しむ」ことの再考を全職員で行いたい。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>嗜好品については、家族と相談しながら支援している。</p>	<p>面会者の持ち込みにも十分注意し、賞味期限の把握や摂取量の把握にも努めたい。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個々の状況に合った支援を行っている。必要に応じ、チェック表を活用したり、排泄のシグナルを見逃さないように努めている。</p>	<p>自尊心や羞恥心に配慮した対応を心がけているが、さらに努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		「入浴を楽しむ」ことへの支援について努力していきたい。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		本人にとって、楽しみ・気晴らしになっているのか、再考していきたい。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		戸外へ行ってみたいという気持ちを引き出す工夫をしていきたい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		車中から楽しめるようなドライブや行き先を検討していきたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		居室への宿泊を希望された方は、今までは無い。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	積極的な働きかけは行っていない。家族環境も個々に違いがあるため、家族参加の行事実施は困難な場合も考えられる。	家族への協力と理解への働きかけは行っていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	具体的な行為について、カンファレンスの中で検討し合い、取り組みに努めている。家族の理解の上、眠剤の使用やベッド柵の活用を行っている。	スピーチロックに関する対応や、職員の認識を高め、同一レベルで関わられるよう取り組んでいきたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関は開放している。また、居室の出入り口への施錠も行っていない。	カギをかけないケアの意義を全職員が理解し、共通認識を持っていきたい。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りが行えるよう職員は分散して様子の把握に努めている。夜間は、状況に合った巡回を行い、マットセンサーの活用も行っている。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状況に応じ支援している。刃のものや針等を使用するときは、見守りと確認を行っている。	
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書やヒヤリハット報告書に記録師、全職員が目を通し確認、押印を行い、想定される事故の回避に努めている。	再発防止に向けての共通認識を持った対応を全職員ができるように改善してきたい。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルの作成と施設内研修での勉強会を実施している。受診時の説明や急変の可能性について情報を共有している。	定期的な訓練や対応法の実習等、繰り返し勉強してきたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	報告書を作成し、職員間で共有して改善に努めている。	再発防止の改善策について、全職員が共通認識を持ち、対応できるよう取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な訓練を実施している。		近隣との連携が図られる体制を整備していきたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況に応じて、想定されるリスクについて説明を行ったり、受診時の医師からの意見や指示を報告し対応を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1日の状態を申し送りや記録により把握し、必要に応じてかかりつけ医の指示を受けたり受診に努めている。		個々の通常の状態を把握し、異常や変化の早期発見ができるように、観察ポイントの習得や、情報交換や、研修への参加に努めたい。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬事情報をケース記録にファイリングして把握に努めている。薬の変更等があった場合は、日誌や連絡帳に記載している。		薬の内容や、効果等、全職員が意識的に確認できる工夫をしていきたい。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給を行う時間を定期に設けたり、乳酸飲料やヨーグルトを取り入れたり、調理の工夫、適度な運動や体操へも取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケアの実施に努めている。		個々の口腔内の状態の把握に努め、口腔ケアの意義を全職員が意識していきたい。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	定時以外にも随時、水分補給の働きかけを行っている。食事摂取に偏りがある方や水分を拒否する方にも個々に支援するよう努めている。		食材の形状等、見た目にも工夫したり、市販食材の活用を取り入れていきたい。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成している。インフルエンザの予防接種の実施。手洗い、うがいの日常的な励行。		外部研修や施設内勉強会を活用し、繰り返し知識の習得に努めていきたい。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	1回/日 調理器具等の殺菌・消毒を行う。賞味期限のチェックや食材の適量購入に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープや手すりを設置している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	四季毎の花を各所に飾ったり、手作りのカレンダーを設置している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間以外にも、ベンチやソファを設置している。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や生活用品は、全て持ち込みとなっており、親しみのある物や使い易い物となっている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気、温度調節、衣類の調節は、随時行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	施設内は、バリアフリーになっている。トイレ、浴室、廊下には、手すりを設置。トイレと浴室と居室の入り口ドアは色分けしてある。	居室内環境について、状態に合った家具等の配置や寝具の工夫を行っていききたい。
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室には名前を掲示している。個々の行動パターンを把握し、タイミングやペースに合った支援に努めている。	入居者同士の責め合いを回避するために、配慮に努めていきたい。
97	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	縁側が設けてあり、天候により、日向ぼっこをしたりレクリエーションの場になったりと活用している。	外で安全に活動できる環境を整備していきたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない